

原爆と枕崎台風から復活した本川橋

被爆橋梁以外でも復興に寄与した橋は多くありました。平和記念公園の西側の天満川にかかる本川橋は1897年に架けられた鉄製トラス橋でした。爆心地から約250mに位置しており、爆風で橋桁が移動し橋脚からはずれて部分的に落橋。また、添架していた水道管は破断し送水できなくなっていました。被災直後に軍隊が板を渡し、応急修理されたことで多くの避難民が渡ることができたのですが、翌月開館は55年のことでした。枕崎台風で完全に落橋し、橋脚だけとなってしまいました。それでも相



建築鉄骨再利用で架けられた本川橋



以前の建築鉄骨跡と思われる穴

生橋と並んで市中心の要所に位置し、復興にはなくてはならない橋とみなされたのでしよう。1949年には残された橋脚上に、いち早くトラス桁が架け直されました。そして、このトラス材は山口県光市にあった旧海軍光工廠の建屋に使用されていた鉄骨でした。終戦直後で建設資材は極端に不足しており、復興計画を進める中で再利用を思いついた設計者がいたものと思います。原爆死没者慰霊碑、平和大橋の建設が52年、広島平和資料館が55年のことですから、いかに早く再建が図られたかがわかります。橋には「昭和24年広島

橋が語る 戦争を経験した橋

③復興に寄与した橋

が以前は建物の部材として利用されていたことの証です。

橋として第2の人生 九十九(つくも)橋 広島市安芸区と海田町

短径間トラスが つながる九十九橋



斜材にあいた 不規則な穴



の間を流れる瀬野川に架けられた九十九橋も呉市の鉄製道路橋となっていた方面からの復興支援に寄与した橋です。枕崎台風で先代が流失した後、50年に本川橋と同じく旧海軍光工廠の鉄骨を使用し、橋の翌年の再建です。本川橋の再利用が推進されたのも、57年に移設された鉄道レールを利用し、これに倣って鋼材の作りかたが全リサイクル利用が推進されたのも、57年に移設された鉄道レールを利用し、これに倣って鋼材の作りかたが全

現在国内で最も古い現役の鉄製道路橋となっていた方面からの復興支援に寄与した橋です。枕崎台風で先代が流失した後、50年に本川橋と同じく旧海軍光工廠の鉄骨を使用し、橋の翌年の再建です。本川橋の再利用が推進されたのも、57年に移設された鉄道レールを利用し、これに倣って鋼材の作りかたが全リサイクル利用が推進されたのも、57年に移設された鉄道レールを利用し、これに倣って鋼材の作りかたが全